



学校だより

たくま

白鷹町立荒砥小学校 令和 3年 5月25日

みんなで育てる魅力ある学校に

校長 菅原 透



新年度が始まり、2 か月が経過しました。「スタートダッシュ」をキーワードに一生懸命がんばっている子どもの姿をほほえましく感じながら、さらなる輝きを求めて、教職員も、懸命にそして楽しく務めております。

さて、先日、十王鷹山地区放課後子ども教室の実行委員会に参加させていただきました。定期的に様々な楽しい催しを企画くださり、ご自分の時間を割いて、子ども達を面倒くださっていることに頭が下がりました。その席上、会員の方から、

「昨年度は集まることができず、子ども達の顔も見られず、残念でした」
「また、子ども達といっしょに活動できるのが楽しみです」
「また、子どもからエネルギーをいっぱいもらいます」

とのお言葉が多数ありました。心が躍りました。荒砥小学校の子ども達は本当にめんごいなのですが、その大きな根っこがここにあるのだと確信しました。「地域の子どもは地域で育てる」という大きな命題が継続して掲げられておりますが、それを体現している本校区です。自分の子どもをかわいがるのは至極当然のこととして、地域の子どもを我が子のように考え、都合をつけて面倒してくださり、それに楽しみながら取り組む…、すばらしいことです。子獅子やスポ少等子どもが地域で集う企画は他にもたくさんありま



す。それを支えてくださっている方々もみんな同じ思いで取り組んでくださっているのでしょう。ありがたいことです。

最近、地域の方から、

「子ども達からあいさつしてもらって、すごくうれしかった」

「あいさつが上手な子ども達ですね」との声をお届けいただきました。本物のあいさつ名人が育てていることに感動！

「地域の作業をしていたら、声をかけてもらって、お菓子のオダチンまでもらってしまいました」

との声もいただきました。本物?!の思いやり名人が育てていることに感動!!

今年も、3年生が紅花の学習を行っています。平成11年に始まった取り組みが脈々と受け継がれていますが、それを支えてくださっているのはやはり地域の方々。陰に陽に畑の世話をしてく下さり、子ども達の学習があたりまえにできる状況になっています。紅花染めも荒砥小学校ならではの体験。大人になっても忘れられない思い出、荒砥小学校出身という自慢になっています。150年の伝統も、地域の皆様からの力強く温かな支えによってここまで育てこられたのですね。

今年度から学校運営協議会制度が始まります。これを機に、地域の皆様とともに子どもを育てる仕組みが一層充実させてまいります。150周年という節目に出会えたことを大きな喜びとして、「あいさつお名人」が活躍する「元気!本気!琢磨校」をめざします。